

# 民生環境水道常任委員会行政視察報告書

中山 富夫

## ○静岡県藤枝市

健康マイレージをはじめとした『“健康・予防 日本一” ふじえだプロジェクト』の取り組みについて

### 【所見】

その内容とは、

- ・プロジェクト1 歩いて健康「日本全国バーチャルの旅」  
継続したウォーキングを支援
- ・プロジェクト2 ふじえだ健康スポット20選  
地域の宝を健康づくりに活用
- ・プロジェクト3 ふじえだ健康マイレージ  
日々の健康行動の実践と定着

世代に応じたアプローチとツールにより「個人で楽しむ健康」「みんなであらゆる健康」を目的に推進している事業である。

「暮らしの基本」4K政策に取り組んでいる。その内容は、健康・教育・環境・危機管理の4項目であり、特に1丁目1番地は市民の「健康」づくりと捉え、“健康・予防日本一”藤枝プロジェクトをスタートさせ、市民が幸せな健康生活を少しでも長く続けられるまちを目指して取り組んでいる。

推進体制では、市民・事業者・行政が一体となり、守る健康（命を守る）発症予防、重症化予防・地域保健医療、創る健康では（命を輝かせる）豊かなライフスタイル、健康寿命の延伸、ポピュレーションアプローチに取り組み、がん検診に力を注いでいる。

守る健康では、市民の健康関心度が高く特定健康診査受診率が静岡県内人口10万人以上の市では第1位、がん検診では全国10万人以上の288市中、肺がん検診が11位、大腸がん検診が7位、乳がん検診では9位と大変高い受診率を示している。メタボ率では静岡県が全国で2位、藤枝市もトップクラスの内臓脂肪症候群が少ないとのことであった。また、守る健康では17地域から1,000人の保健委員活動しており、メリットでは底辺の拡大が図れるが、デメリットでは継続性の確保が懸念されるとのこと。市民の2万人が経験者であることから、関心度がうかがえる。

世代に応じたアプローチとツールにより「個人で楽しむ健康」「みんなで楽しむ健康」づくりを実践し、これからは「守る健康」から「創る健康」へと行動をお

こしているように見受けられ、地方都市で人口の減少傾向が多い中、毎年増加傾向にあるとのこと。健康マイレージを初めとした「健康・予防 日本一 ふじえだ」の実践を官民一体となって協働のまちづくりの柱として推進しているように感じた。

## ○東京都国分寺市

### 国分寺市プレイステーションについて

#### 【所 見】

その内容とは、

木に登ったり、木でいろいろなものをつくったり、土を掘ったり、土をこねたり、火を燃やしてたき火をしたり、火を使って食べ物を焼いたり、さまざまな自然と触れ合いながら遊ぶことができる遊び場である。プレイリーダーと呼ばれる大人がいて、みんなが楽しく遊べるように手助けしたり、相談に乗ってくれたりしている。

現在は「冒険遊びの会」が国分寺市指定管理者として運営しているが、33年前に自然環境の中で子育てする遊び場がないとお母さん方が市民団体を設立、議会で条例を制定し、財団法人として活動しているとのこと。その遊び場の用地については、地主の理解のもと、無料でお借りしているとのことであった。

予算については、市民団体設立当初は市からの補助金が年間120万円だったそうだが、指定管理になり年間1,200万円、「冒険遊びの会」応援団として正会員が年間5,000円、賛助会員が年間2,500円、法人・団体の正会員が4口2万円以上とのことで、現在はNPOとして活動している。

国分寺市では、プレイステーションを核として東部地区拠点親子広場「BOOK ENたまご」、国分寺市提案型協働事業「こくぶんじ青空ひろば」11カ所の公園と連携して、子供の遊び場として官民協働で子育てを応援しているとのこと。

午前中は親子が中心に利用しているとのこと、午後の時間帯は小学生も利用すると思われるが、見聞きして感じたことは、例えば10人の子供がいたとして、アウトドアとして自然体で育てるのが良いのか、何人の子供が遊べるのか、子育て環境は人それぞれかな、室内遊びと違い、野外なので雨天の場合はどうなのか、私なりにふと疑問を感じた。